

みなさん、こんにちは。2730 ジャパンカレントロータリーEクラブ第 27 回例会を開催いたします。

さて、先週の例会で今月は世界理解月間であることをお伝えしました。

今回はロータリー文庫(www.rotary-bunko.gr.jp/index.htm)でデジタル化された資料から、世界理解月間にあたって掲載された資料から一部分をご紹介しますと思います。

「世界理解月間にあたって」成川守彦 (D.2640 月信から)

最初にロータリーで国際奉仕に類する活動が行われたのは、1914 年、第一次世界大戦の頃と言われ、アメリカからヨーロッパへ出兵したロータリアンの子弟をイギリスのロータリアンの家庭がホストしたり、アメリカ、イギリス、アイルランド、カナダのクラブによって、ヨーロッパ各地で避難民への物資補給や、傷病兵の慰問、終戦で復員してくる軍人に対するボランティア活動などが行われました。

1921 年ロータリーの国際大会が初めてアメリカを離れ、スコットランドのエジンバラで開催されたとき、アメリカから船をチャーターしてロータリアンが大挙出席し、アメリカ人たちは「これほどの使節団は親善とか通称とか何か目的を持ってきたが、しかし自分たちは本当の裸の人間としてきたのだ」と話し、それではこれからハダカ同士の付き合いによって世界平和を達成しようではないかという事になりました。そして「奉仕というロータリーの理想に結束した職業人の世界的友好による理解、善意および国際的平和の増進」という国際奉仕の考え方が発表され、1922 年ロスアンゼルス大会で、綱領の第 6 項目として正式に明文化されました。

このように、ロータリーの国際奉仕は個人同士の付き合いで世界平和を達成することであり、すなわちロータリーの国際奉仕は個人奉仕であり、綱領の中で謳われている国際奉仕の目的は、現在われわれが日常的に行っているWCSに代表されるような人道主義に基づく援助活動とは大きくかけ離れた活動であります。金銭や物資やマンパワーで経済的に恵まれない途上国を援助しようという発想は、1960 年代の初頭から起こってきたものであります。

国際奉仕活動の一部分として、大規模救助事業が実施されたのは、1923 年の関東大震災に対するアーチクラフ基金からの支出です。この援助は、東京RCのロータリーに対する考え方を大きく変えました。

その後、1929 年にダラス大会において「大災害救助基金」が正式に設置され、さらに 1941 年RI理事会によってロータリーが救助事業を実施する際の指針とも言うべき「人道主義救助および用意に関する方針」が制定されました。

1962 年アジアから最初のRI会長に就任したニッティシ・ラハリー(インド)は、新しい形の国際奉仕の実践活動である世界社会奉仕 World Community Service を提唱し、文盲対策、スラム街対策などを実施しました。日本におけるWCS活動の第1号は、365 地区によるインドの救癩(きゅうらい)事業です。

以上紙面の都合で次週と2回にわたり掲載させていただきます。

中には現在は「ロータリーの目的」に変更された綱領のことであったり、世界社会奉仕(World Community Service)のことであったり、ここから展開して調べなければならないことは沢山ありますが、ロータリーの成り立ちを知ることによって会員の皆様の一助になれば幸いです。

また、現在、私たちにクラブから全会員に配布された「ロータリー入門書」もお手元に届いたかと思います。それらを参考にそれぞれのロータリー活動の礎になるよう祈念いたします。